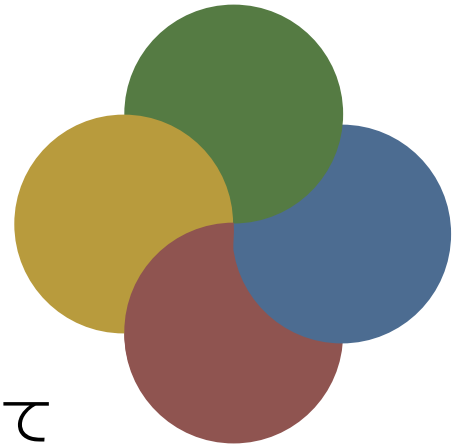
# 新見市消防体制基本構想計画

市民の安全・安心を守るため
持続可能な消防体制をめざして



## 概 要 版

令和８年 11 月改訂

新見市消防本部

改訂にあたって

Ⅰ　構想計画改訂の趣旨・・・・・1

Ⅱ　構想計画改訂にあたって・・・1

Ⅲ　改訂に向けた現状と課題・・・2

Ⅳ　主要な取組・・・・・・・・・3

おわりに

---

**構想　：　これからの新見市の消防体制　～私たちが目指す未来像～**

# 改訂にあたって

新見市消防体制基本構想計画（以下「構想計画」という。）は、令和３年度から令和 12 年度までの 10 年間を計画期間として策定したものです。令和７年度末までの取組を検証するとともに、令和８年度に、新見市消防体制基本構想検討委員会（以下「検討委員会」という。）から受けた提言を踏まえ、後半５年間に向けた見直しを行いました。

今回の見直しでは、これまで整備してきた消防拠点や車両を有効に活用しながら、拠点ごとに固定していた職員配置を見直し、消防・救急需要や災害状況に応じて、市全体で人員を柔軟に配置・運用する体制へと転換します。限られた人員、車両、施設及び資機材を最大限に活用し、災害時に必要な部隊を確保することで、市民の安全・安心を将来にわたって守り続けることを目指します。

## Ⅰ　構想計画改訂の趣旨

### ✧　計画の趣旨

新見市総合計画（以下「総合計画」という。）に掲げる「安全で、市民生活を支えられるまち」の実現に向け、人口動態、医療提供体制、消防・救急需要、地域防災力の変化を踏まえ、持続可能な消防体制を構築します。

### ✧　総合計画との関係性

総合計画の行動計画に掲げる消防・救急に関する施策を、具体的に実施するための計画として位置づけます。

### ✧　検証体制

消防本部が毎年度の実施状況を確認・検証し、必要な改善を行います。計画期間終了時には、検討委員会等による検証を行い、次期計画へ反映します。

### ✧　計画期間

令和３年度から令和 12 年度までの 10 年間。令和８年 11 月改訂では、検討委員会の検証及び提言を踏まえ、後半５年間の方向性を明確にします。

## Ⅱ　構想計画改訂にあたって

### ➢　前半５年間の取組

消防庁舎整備を中心に、災害対応の基盤整備を進め、第１段階として取り組む事業は一定の進捗が見られました。

### ➢　残された課題

人口減少、高い水準で推移する救急需要、医療提供体制の変化、消防職員・団員の確保、地域防災力の維持など、運用面の課題が残ります。

### ➢　今回の見直しで示すこと

限られた人員、車両、施設及び資機材を市全体で効果的に活用し、消防・救急サービス水準を維持するための体制転換の方向性を示します。

## Ⅲ　改訂に向けた現状と課題

人口減少や高い水準で推移する救急需要を背景に、本署と分署の業務量の偏り、消防職員・団員の確保、地域防災力の維持など、市全体で対応すべき課題が生じています。これらを踏まえ、従来の拠点ごとの固定的な人員配置を見直し、市全体で必要な部隊を確保できるよう、消防力を柔軟に運用する体制への転換を図ります。

### 1　持続可能な消防体制

新消防庁舎整備などの基盤整備が進む一方、人口減少と財政的な制約への対応が求められています。広い市域を限られた人員・予算で守り、将来に必要な消防機能を維持する必要があります。

### 2　消防署・分署

救急出場が本署に集中する一方、分署との業務量に偏りがあります。初動体制の確保と、教育訓練に充てる時間の確保が必要です。

### 3　消防団

消防団員の減少と高齢化が進んでいます。団員の負担を軽減しながら、地域の実情に応じた持続可能な消防団活動を維持する必要があります。

### 4　自主防災組織

組織の設立状況に地域差があり、地域コミュニティの弱体化も課題となっています。防災リーダー等の担い手確保と、継続した訓練・活動を支援する必要があります。

### 5　救急・医療連携

救急出場件数は、年間 1,700 件を超える水準で推移し、医療提供体制も変化しています。救急隊員の再教育と医療機関等との連携を強化する必要があります。

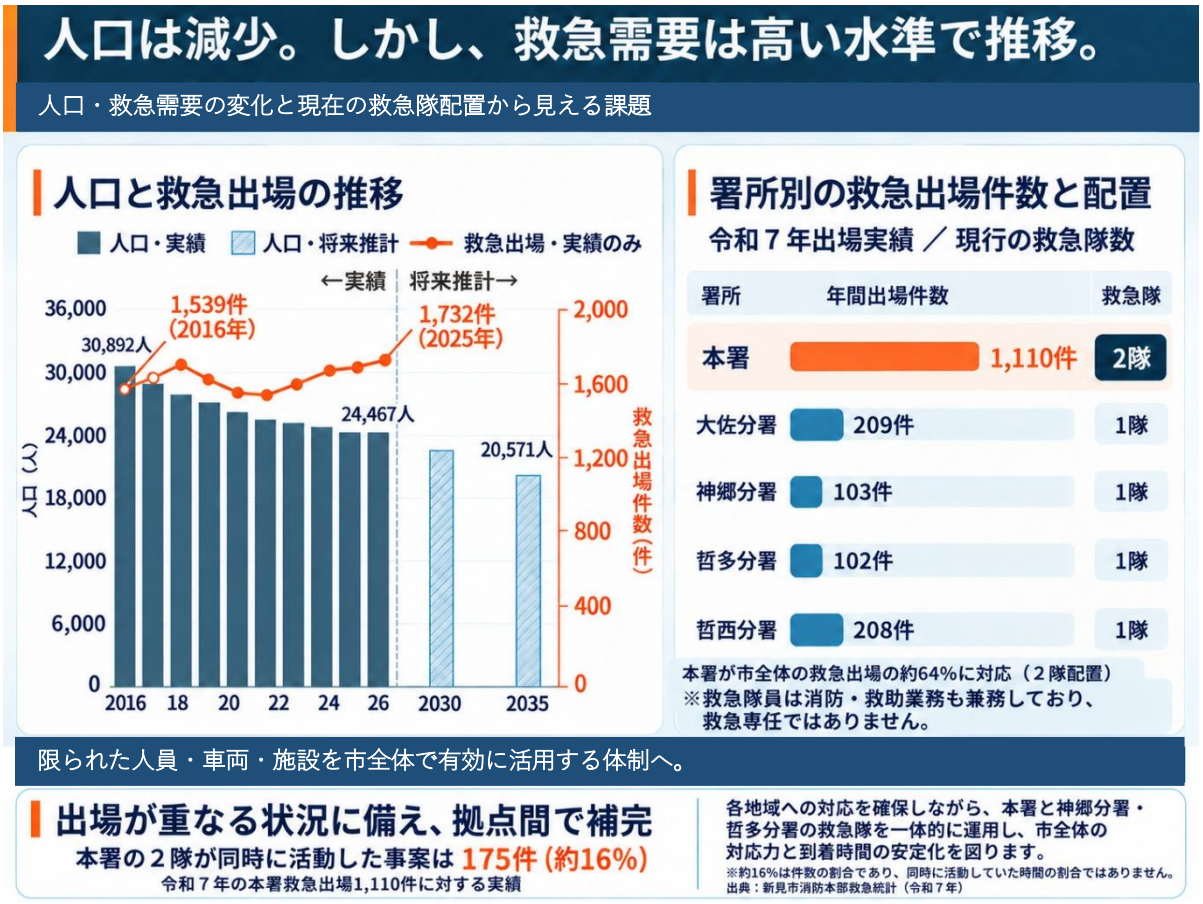
### 6　人材確保・職員環境

消防職員の採用・定着と育成に充てる時間の確保が課題となっています。専門性の向上、勤務環境の整備を通じて、必要な人材を確保・育成する必要があります。

### 7　地域との連携

地域の人材・資機材等の活用や関係団体との連携、活動への継続的な参加に課題があります。消防団、自主防災組織、事業所、大学等との協働を進め、若い世代を含む地域の防災活動への参加を広げる必要があります。

**これらの課題に対し、次の「Ⅳ 主要な取組」により、市・消防本部として具体的な対応を進めます。**




### (3) 人材の確保・育成と環境整備

消防力の一元管理と適切な勤務管理により、研修･技能向上と休養に必要な時間を確保し、人材の確保・育成を進めます。仕事と家庭生活の両立を支え、複数業務に対応できる職員の育成、管理職等のマネジメント能力の向上、安全管理・健康管理に取り組みます。

### (4) 消防 DX・通信指令体制の強化

指令システムと消防救急デジタル無線は、令和 12 年度の更新時期を見据え、計画的な維持管理・更新を進めます。また、映像・位置情報、AI 等を活用し、情報共有と災害対応の高度化・効率化を図ります。

### (5) 火災予防・地域防災力の強化

住宅防火対策、査察・危険物施設の安全対策、予防人材の育成を推進します。消防団、自主防災組織、事業所、新見公立大学等と連携し、地域全体の災害対応力を高めます。



## 2　消防団の取組

**団員の確保・育成と活動環境の整備を図り、持続可能な消防団活動を支えます。**

### (1) 消防団員の確保・育成

機能別団員制度等を活用し、多様な人材が参加しやすい仕組みを構築します。広報や防災教育を通じ、次世代の担い手を育成します。

### (2) 活動基盤の維持・活動のサポート

国・県等の支援制度も活用し、消防団車両、詰所・機庫、装備・資機材の計画的な更新・改修を進めます。

### (3) 地域に根ざした消防団活動の推進

地域の実情や団員個々の事情に配慮し、訓練・活動の負担の軽減と、参加しやすい環境づくりを進めます。

### (4) 消防本部・地域・事業所との連携強化

消防本部・消防署、消防団、自主防災組織、事業所等の情報共有と合同訓練を進め、災害時の連携を強化します。

## 3　自主防災組織等の取組




**自助・共助の力を高め、地域ぐるみで災害に備える体制をつくります。**

### (1) 自主防災組織等の活動強化

地域の災害特性に応じた実践的な訓練を支援します。また、大学等と連携して地域のつながりや活動実態、防災資源を把握・分析し、必要な支援と住民が参加しやすい活動づくりにつなげます。

### (2) 地域防災を担う人材の育成

防災リーダーを計画的に育成し、新見公立大学等と連携して、防災士資格を持つ学生や学生機能別団員などの継続的な参画を促します。また、学生等が将来、他の地域や就職先でも防災活動を担えるよう、実践的な経験を積む機会を提供します。

### (3) 消防・行政・地域との連携強化

平常時からの情報共有や防災活動を通じて、消防団と自主防災組織等が連携できる仕組みを構築します。

### (4) 事業所との協力体制の構築

事業所の自衛消防体制の充実を支援し、地域と事業所の情報共有や災害時の協力体制の構築を進めます。

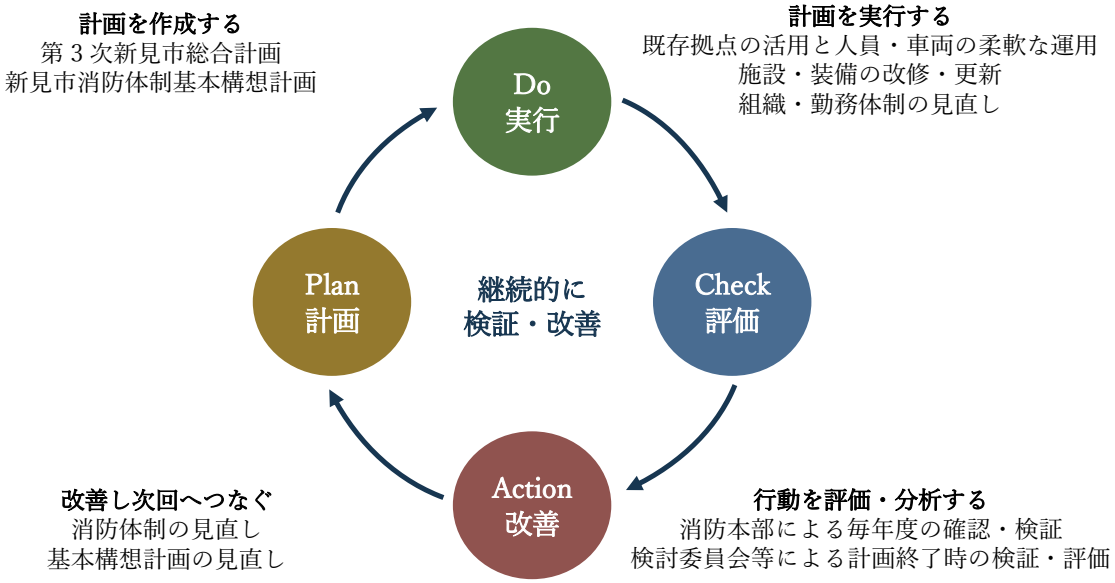





## 4　計画の推進と検証

具体的な事業・実施時期・数値目標・担当部署・検証方法を整理し、計画的に推進します。消防本部が毎年度、出場件数、現場到着時間、部隊の移動状況、署所に隊員が一時的に不在となる状況、市民・職員の意見等を確認し、目標の達成状況と課題を分析して、次の取組や運用の改善に反映します。計画終了時には検討委員会等が検証し、次期計画に反映します。消防本部と庁内の関係部局が連携し、役割を分担して取組を進めます。

## 消防の PDCA サイクル









## おわりに

今回の改訂は、これまでの取組を振り返り、社会の変化を見据えながら、消防本部の次の歩みを示すものです。大切なのは、計画を策定することではなく、その理念を着実に実行し、検証と改善を重ねながら、時代に応じて進化し続けることです。

消防本部は、これまで積み重ねてきた経験と地域との信頼を大切にしながら、次の世代へ確かな消防体制を引き継いでいきます。

# これからの新見市の消防体制

## ～私たち消防が目指す未来像～

人口減少や少子高齢化が進む一方、救急需要は高い水準で推移し、災害は複雑・多様化しています。新見市が目指すのは、地域の拠点を生かし、人員・車両等を市全体で効果的・効率的に活用することで、必要な消防・救急サービスを将来にわたって守り続ける体制です。

**★ 消防が考えるスマートシュリンクとは**

既存の消防拠点や車両を生かし、必要な消防機能を維持しながら、拠点ごとに固定していた人員配置を見直し、消防・救急需要や災害状況に応じて人員を柔軟に配置・運用することで、市全体として必要な消防力を確保する「賢い再構成」です。

### 未来へ向けた３つのステップ

1. **拠点を生かす**

   本署を中核に、既存の分署の一部を分遣所へ移行するなど、各拠点の役割を見直し、地域の初動対応と迅速な現場到着を支えます。

2. **消防力を柔軟に運用する**

   救急需要や災害状況に応じて人員を柔軟に配置・運用し、市全体で災害に対応できる部隊と必要な消防力を確保します。

3. **人を育て、検証し、進化する**

   職員の育成、消防 DX、医療機関・消防団・地域との連携を進め、取組の実施状況と効果を毎年度検証して運用を改善します。

### 目指す未来像

新見市消防本部は、市民の安全・安心を守る使命を変えることなく、社会の変化に合わせて組織・配置・運用を見直し続けます。地域と力を合わせ、職員が誇りを持って次の世代へ引き継ぐことのできる、持続可能な消防体制を構築します。

**守るべきものは守る。変えるべきものは変える。**

NIIMI CITY FIRE DEPARTMENT

# 新見市消防体制基本構想計画

令和８年 11 月改訂

発行／新見市消防本部
編集／新見市消防本部総務課
〒718-0011　岡山県新見市新見 186 番地
℡0867-72-9119